

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：17201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2017

課題番号：25770238

研究課題名(和文)戦後日本における医療運動の展開と地域社会形成に関する実証的研究

研究課題名(英文)Empirical study on development of medical service movement and formation of local communities in postwar Japan

研究代表者

鬼嶋 淳(KIJIMA, ATSUSHI)

佐賀大学・教育学部・准教授

研究者番号：60409612

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、医療運動との関連から地域社会の形成過程を検討したものである。敗戦直後から1970年代までを対象時期として、埼玉県大井地域にある大井医院による医療運動を検証した。医療運動関係者は、戦後、「開発」とは異なる地域のあり方を模索して住民から一定の支持を獲得し続けた。とくに1950年代までの診療活動に対する信頼を基盤に、1960年代以降、議員となり地方自治体の医療・福祉政策を主導したことが、高度成長期に保守系町長と協力して福祉重視の町づくりを構想できた要因であった。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed the formation process of local communities in relation to medical service movement. The target of this verification is movement in the Ooi area in Saitama pref. from immediately after the end of world war II to 1970's. The participants of this movement received support from local residents as they groped for the how region should be, other than "development". With the trust based on their activities for medical treatment in the 1950's, some of them became members and lead medical and welfare policy in local governments since 1960's. It is the reason why they could plan local development with conservative town mayor which focusing on welfare during the period of rapid economic growth.

研究分野：日本近現代史

キーワード：地域史 医療運動 地域医療 地域福祉 医療生協 高度成長 地域形成

1. 研究開始当初の背景

(1) 「生存」をめぐる日本近現代史研究への注目

2008年度歴史学研究会大会における大門正克の報告(「序説「生存の歴史学」」)を契機に、「生存システム」の問い直しが歴史研究のなかで取り組まれ、特に東日本大震災以後、「生存」はキーワードとなりつつある。2011年度の日本史研究会大会では「『生きること』の歴史像」がテーマに掲げられ、高岡裕之が「『生存』をめぐる国家と社会」を報告した。

現在、人々が生きていくときに結ぶ社会関係を全体として把握する必要性、地域分析の重要性が指摘されているが、今後、「生存」をめぐる基礎的・理論的な議論を積み重ねる必要がある。

本研究は、これらの研究動向をふまえながら、申請者が進めてきた地域という場の持つ複雑な政治的関係に注目して、「生存」を支える医療、福祉について検討することで、現在の「生存」をめぐる研究に新しい問題を提起できると考えた。

(2) 日本医療史研究・医療運動史研究

従来、日本の医療制度は、医療費については1961年の「国民皆保険」を前提に1930年代の厚生省設置に源流が求められ、供給は開業医制を軸にして論じられてきた。(川上武『現代日本医療史』勁草書房、1965年、小坂富美子「戦争と厚生」『岩波講座日本通史19』岩波書店、1995年)。近年、敗戦直後の医療構想の検討、50年代の公的医療機関の実証的研究が始まった(高岡裕之『総力戦体制と「福祉国家」』岩波書店、2011年、中村一成「地域と医療」『1950年代と地域社会』現代史料出版、2009年)。今後は、1961年「国民皆保険」制度以前の地域社会における医療問題の実態解明が重要となってくる。

医療運動史研究は、運動経験者による回顧録、通史的な研究、資料集が中心(若月俊一、全国厚生連『協同組合を中心とする日本農民医療運動史』1968年、『日本生活協同組合連合会医療部会50年史』2007年など)であり、医療史、社会運動史からも注目されてこなかった。

申請者は、これまで戦後日本の地域社会における医療と運動を対象に研究してきた。医療史と医療運動史を接続する数少ない研究といえる。本研究はその成果を進展させる。

(3) 運動史研究

近年、運動主体の意識に注目した三輪泰史(『日本労働運動史研究序説』校倉書房、2009)の研究、高度経済成長期の社会運動を

対象とした広川禎秀らの研究が発表され、運動史研究の方法、対象、時期は広がった。そのなかでも、保守対革新という分け方で括れない運動を分析対象とするアンドルー・ゴードンの研究(『55年体制と社会運動』『日本史講座10 戦後日本論』東京大学出版会、2005年)は方法的に重要である。申請者も参加した共同研究では、新生活運動に焦点をあて日本の戦後を検討し、「生活」を対象にする新生活運動の場合、保守と革新という2項対立では収斂できないことを明らかにした(大門正克編『新生活運動と日本の戦後』)

これまで申請者は、地域における諸運動をイデオロギーや要求内容で選別するのではなく、総体として把握して検討するという方法で研究を継続しており、新しい運動史研究の方法に通じるものである。本研究も同様な方法をとる。

2. 研究の目的

本研究は、戦後日本における医療運動の展開を、地域の社会関係との相互連関に焦点をあて検討し、地域社会の形成過程を実証的に明らかにすることを目的としている。また、その実証的な検討を通じて、地域史研究の新たな方法を提起したい。

これまで申請者が進めてきた、占領期日本の地域社会の形成過程を社会運動の展開を軸に明らかにしてきた成果、戦時～戦後の地域における保健衛生・医療問題を政治との関連で明らかにしてきた成果を発展させ、1970年代までを射程に入れて、戦後日本における地域社会の形成過程を、主体的な医療運動の展開と社会経済的構造の変化との相互関係から明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では当初、埼玉県入間郡大井地域の大井医院、入間医療生活協同組合の運動を主要分析対象としつつ、その他の地域との比較研究をする予定であった。

しかし、研究期間の3年目に基本史料と位置付けた「大井医院・大島慶一郎関係資料」が質量とも想定以上に充実したものであることが確定したため、その整理作業に労力を注ぐことになった。

対象地域は限定されたが、研究目的は変化していない。戦後の医療運動史研究は数少なく、地域を限定しても、地域の医療問題、医療運動について、歴史学的、実証的に研究することの意義、および史料発掘、関係者からの聞き取り作業がもつ重要性は失われないと判断して、研究を遂行した。

1年目は、「大井医院・大島慶一郎関係資料」の目録を刊行した。同時に論文を執筆した。具体的に調査した対象は、大井医院の地域での医療活動を示すもの、入間医療生活協同組

合、全日本民主医療機関連合会、日本生活協同組合に関する全国的・埼玉県関連の史料といった医療・医療運動関連史料である。

2年目も引き続き基本史料の整理を続けた。具体的に調査した内容は、高度成長期の地域政治に関する史料や、1960年代～80年代のミニコミ誌などである。大井医院や大島慶一郎は、医療運動を基盤にしつつも、人びとが地域で生活する際に問題となる様々な新たな課題の解決に取り組んできた。本研究課題は、医療運動を中心に地域社会の形成過程を歴史的に検討していくことであるが、地域形成について医療運動に限定せずに生活全般まで含めて検討する重要性が明らかになった。

上記のような問題設定の広がりの中で、環境資源問題に取り組みながら、新しい地域社会形成を進めた地域女性の運動について研究の対象とした。

具体的には、1960年代後半から70年代における大分市の生活学校運動を分析した。生活学校に参加した女性たちから聞き取り調査を行い、当時作成した冊子などの史料収集を進め、学会で報告し論文を執筆した。

3年目も引き続き基本史料の整理を続けた。また、比較対象地域と考えていた東北地方の調査を行った。しかし、前述のとおり、この段階で基本史料と位置付けた「大井医院・大島慶一郎関係資料」が研究計画当初の想定を上回る質量を有した史料群であることが判明したため、研究遂行の中心を埼玉県大井地域に限定した。

基本史料を補うものとして、地域の行政史料を網羅的に収集した。さらに、「大井医院・大島慶一郎関係資料」に関する講演会を開催して、地域住民から関係資料の情報提供を呼びかけ、また聞き取り調査に協力してもらった。

4年目には、基本史料の整理がおおよそ終了し、史料の検討に移った（史料整理は完全に終了したわけではなく、追補作業を続けている）。同時に、周辺史料の探索、大井医院の運動に参加した関係者からの聞き取り、高度成長期に大井医院の診療範囲に新しく造成された団地自治会に関する史料を収集した。

1年目から4年目前半に収集した史料をもとに、都市近郊農村地域である埼玉県入間郡大井村における地域医療・福祉の展開について検証した。都市化が進む地域において、医療運動関係者がどのように対応したのか、人びとの意識にまで掘り下げて解明することに努めた。また、基本史料の重要性を地域住民や医療機関関係者に伝えることにも留意して研究を続けた。

学会報告後、まとめの段階で、追加調査が必要となったが、家庭の事情により出張調査がかなわず、1年間研究期間を延長した。

最終年度は、1年目から4年目の史料収集、研究分析を総合して、敗戦直後から1970年

代までを通して検討した。主体的な医療運動の展開が地域形成にどのような意義を有したのかを解明した。さらに、戦後地域社会の変化を、地域における諸運動を総体として把握して検討することで解明するという、戦後地域史研究の一つの方法を示した。

4. 研究成果

本研究では、基本史料と位置付けた「大井医院・大島慶一郎関係資料」の整理と分析を通じて、医療運動が戦後地域社会の形成に有した意義を明らかにした。

その際注目した点は、に敗戦直後の医療環境、生活環境が劣悪な地域で、医療運動が有した意義についてである。に朝鮮戦争期に、地域で反共政策が展開されるなか、医療運動はどのような対応をとったのかについてである。に1950年代後半、都市化の影響が現れ始めた地域において、農村医療運動はどのような展開を示すのか、また地域住民の医療要求はどのように変化するかについてである。に高度成長により都市化が進む地域において、医療運動・関係者は地域医療・福祉にどのように関わっていくのか、に1970年代に地域のあり方をめぐってどのような対抗があり、医療運動関係者はどのような地域構想をしたのかについてである。

からについては、2013年度に論文として発表しそれを前提にしながら、の課題については、2017年に学会報告、論文で発表した。からを全面的に検討したのは、2018年に『部落問題研究』で発表した論文である。1970年前後の地域のあり方をめぐる対抗は、「保守」対「革新」という枠組だけではなく、戦後地域の運動の意義を踏まえて検討することが必要である。

また、高度成長により地域が変化するなかで、住民による地域構想については、地方都市の事例として、1960年代後半から70年代における大分市の生活学校運動を分析した。生活学校に参加した主婦たちは、高度成長による社会変動により生じたゴミ処理や過大包装など地域課題を具体的に解決していき、新しい地域のあり方を示した。成果は、2014年に学会報告、論文として発表した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

(1) 鬼嶋淳、戦後日本の地域医療・福祉をめぐる運動 入間医療生活協同組合の模索、部落問題研究、224、審査有、2018、30-60

(2) 鬼嶋淳、地域医療・福祉をめぐる模索 1960・70年代の都市近郊農村、史観、176、審査無、2017、116-118

(3) 鬼嶋淳、高度成長後半期の環境資源問

題をめぐると地域女性の運動, ISHIK2014
Proceedings of the 4th International
Symposium on History of Indigenous
Knowledge, 査読有, 2014, 152-159

(4) 鬼嶋淳、1950年代における農村医療運
動の展開と地域社会, 部落問題研究、205、査
読有、2013、124-156

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) 鬼嶋淳、地域医療・福祉をめぐると模索
1960・70年代の都市近郊農村、早稲田大学
史学会、2016年10月15日、早稲田大学

(2) 鬼嶋淳、高度成長後半期の環境資源問
題をめぐると地域女性の運動、第4回在来知歴
史学国際シンポジウム、2014年10月26日、
佐賀大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

(1) 埼玉県ふじみ野市立大井郷土資料館
『大井医院・大島慶一郎関係資料目録』大
井郷土資料館発行、2013年7月、231頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鬼嶋 淳 (KIJIMA ATSUSHI)

佐賀大学・教育学部・准教授

研究者番号：60409612

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()